

流通速報及び事業進捗

2026年9月期 第4四半期

流通拡大期から、粗利・営業利益の拡大期へ



事業進捗動画

<https://youtu.be/PSyTFRnkNq8>

人を不幸にしないための、デジタルと



デジタルプラス

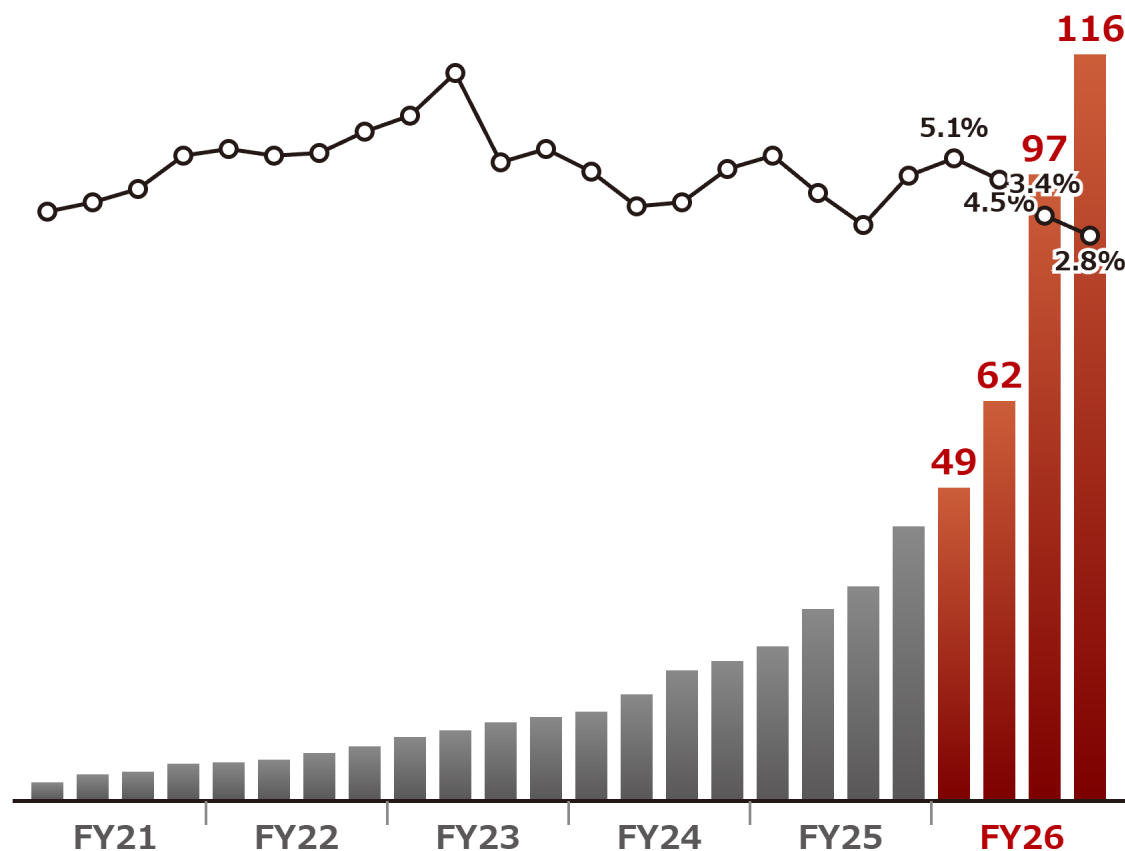
株式会社デジタルプラス（証券コード：3691）

2026年10月

流通総額は26四半期連続成長、4Qは116億円（前Q比119%）

（単位：億円）

○ 流通粗利率 ■ 流通総額



※FY21 1Q～FY26 4Q。数値ラベルはFY26のみ表示

四半期連続成長

26 四半期

流通総額の連続成長

4Q流通総額

116 億円

26四半期連続で過去最高を更新

4Q 前Q比

119 %

3Q 97億円 → 4Q 116億円

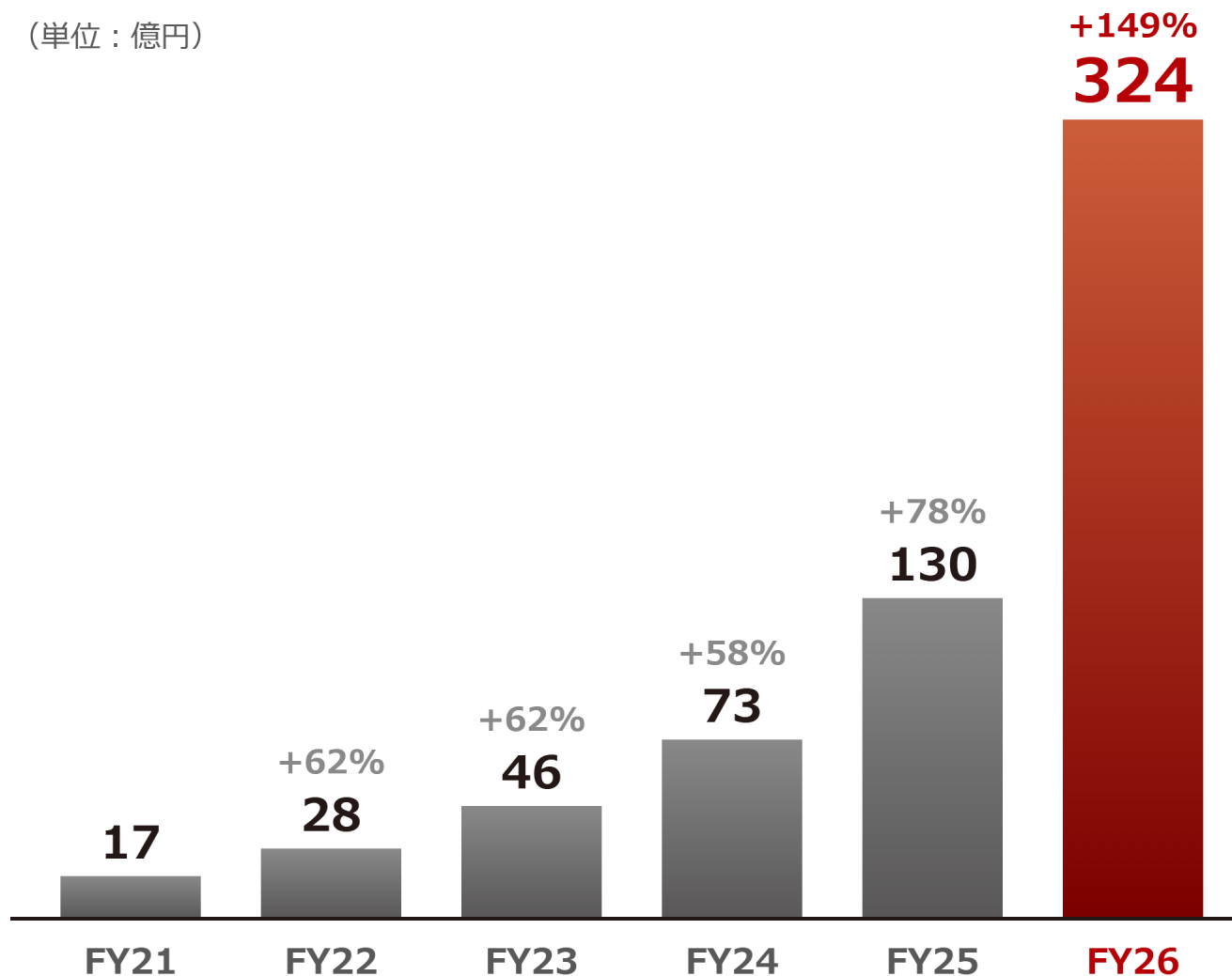
4Q 前年同Q比

273 %

前年同期の約2.7倍

年間流通総額は324億円、前期の約2.5倍に拡大

(単位：億円)



※FY21～FY25はデジタルプラス（デジタルand除く）の流通総額実績。上段は前期比増加率

通期流通総額

324億円

前期比249%

当初目標

250億円

大きく上回って着地

2028年9月期 目標

1,000億円

年間流通総額

「東証グロース市場250指数」の構成銘柄に選定



2026年10月30日 定期選定

東証グロース 市場250指数

構成銘柄に選定

指数について

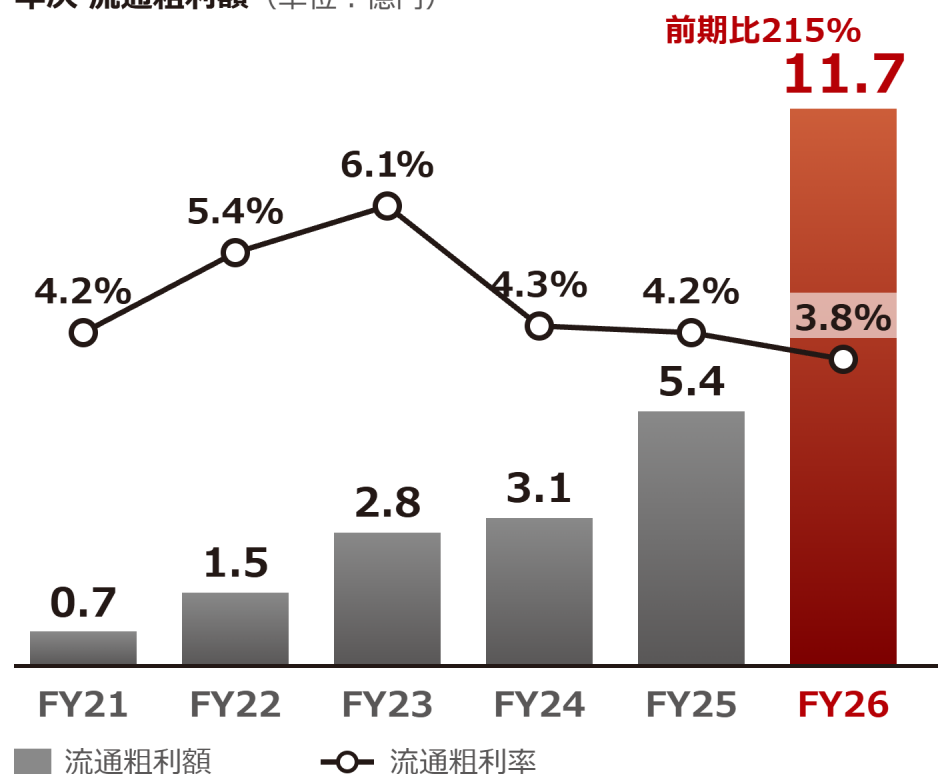
JPX総研が算出・公表。東証グロース市場の中から上場時価総額を基準に原則250銘柄で構成され、連動するETF等の金融商品にも活用されています

選定を受けて

事業基盤と市場評価の一つの証と受け止め、2028年9月期の年間流通総額1,000億円の実現と、積極的なIR発信による企業価値向上に努めてまいります

流通粗利額は前年比約2.1倍

年次 流通粗利額（単位：億円）



※デジタルプラス（デジタルand除く）の年次実績

流通粗利率の変動要因

①

ポイ活は流通約150億円に拡大、原価率の改善は遅延

流通は大きく拡大した一方、原価率改善の効果発現が想定より遅れた

FY27の1Q・2Qと段階的に改善を見込む

②

北海道給付金は伸び悩み

デジタルギフト®の選択が限定的となり、郵送での受け取りを選ぶ世帯が多数に

③

3Qは株主優待が大きく貢献

流通粗利率の高い株主優待が3Qに集中して貢献。

4Qはその反動で流通粗利率が低下

ビジネスモデル：流通粗利の源泉と販促投資



流通粗利の源泉

- ① **ディスカウント仕入** **流通拡大で拡大**
流通総額・取引数の拡大による値引き仕入や、受取先の手数料原価の抑制
- ② **クライアント手数料**
企業・自治体などがギフトを発行する際の手数料
- ③ **ユーザー手数料**
手数料原価のかかる一部受取先で、ユーザーから受け取る手数料
- ④ **失効益**
有効期限（原則3ヶ月）内に使われなかった金額
※資金移動業サービスは対象外

大型案件獲得のための販促投資

1) ディスカウント販促投資 (粗利減)

新規導入時に低手数料・額面ディスカウントを提供し、導入後に手数料率改善や失効益で粗利を回収

2) 営業販促投資 (販管費増)

クライアントのシステム連携や、目標流通達成時のインセンティブなどの費用

受取先の手数料ディスカウント

約**5,000**万円／年

流通拡大により受取先手数料のディスカウントが発生
年間約5,000万円の利益効果

仕入れディスカウント

流通規模の拡大に伴う
仕入れ条件の改善により、

流通粗利の改善が現実化

流通が大きくなるほど、利益が生まれる構造へ

販管費：瞬時アクセスに耐える基盤と成長への投資

インフラ	セキュリティ	AI	人材	販促
北海道庁の約282万 世帯向け給付など、 瞬時アクセスに 耐える基盤を整備	不正アクセス対策や 通信制限など、 段階的に強化	開発生産性 3倍 開発・運用へのAI活用	大型案件の運用と 流通拡大に向けた 人材投資	流通の急成長に伴い 販促費が増加し、 最大の重しに

大型案件を受け止められる基盤が、次の流通拡大の土台に
来期も一定の投資は続けつつ、**投資回収フェーズ**へ

不正アクセスを防ぐための取り組み

① 脆弱性診断と対策

従来の診断に加え、AIを活用した診断を導入。
最新の攻撃手法を想定し継続的に点検

③ 外部からのアクセス制限

管理機能など重要な経路のアクセス制限を強化。
不正な通信を遮断する仕組みを導入

⑤ 常時監視と迅速な対処

エラー・アクセス数・不審なアクセスを夜間含め常時監視。
異常検知時はただちに調査し、不正な接続元を遮断

② インシデント対応訓練

インシデント発生を想定した訓練を実施し、
迅速に初動対応できる体制を整備

④ 認証・権限管理の強化

デジタルギフト®発行スタンドの認証を強化。
管理機能の権限は申請・承認制、定期的に棚卸し

万一の際に影響を最小限に

⑥ 個人情報の最小化

お預かりする個人情報は必要最小限に。
保有情報も点検し、不要なものは削除

⑦ デジタルマネー在庫の最小化

バリューコード等の在庫と預かり金残高を
常時把握し、保有量を必要最小限に

脅威の動向を踏まえて対策を見直し、強化を続けてまいります

流通粗利率の低下・販管費増・減損による業績予想

IFRS

単位：百万円

項目	期初予想 (2025/11/14)	今回予想	増減率
① 流通総額	25,000	32,425	+29.7%
② 売上高	1,700	1,699	▲0.1%
③ 還元前営業利益★	230	104	▲54.8%
④ 減損前営業利益	200	79	▲60.5%
⑤ 営業利益※	200	14	▲93.0%

当社の利益基準

還元前営業利益

営業利益に、株主優待費用など株主還元に係る費用を加えた利益。今後の当社の利益基準とします

還元費用を差し引く前の利益を示すことで、事業の実力と還元の規模を明確にします。

※ 減損損失は監査法人と協議中のため現状未確定であり、金額が前後する可能性があります。

流通拡大期から、粗利・営業利益の拡大期へ



流通が伸びれば、利益は伸びる。これからは粗利・営業利益の拡大期へ

2027年9月期 業績予想：粗利・営業利益の拡大期へ

IFRS

単位：百万円

項目	FY26 見込み	FY27 通期予想	通期 前期比
① 流通総額	31,587	55,000	約1.7倍
② 売上高	1,699	2,750	+61.9%
③ 還元前営業利益★	104	375	約3.6倍
④ 営業利益	14	300	約21倍

還元前営業利益 ★

FY27 通期予想

375 百万円

前期比 約3.6倍

流通拡大の成果を、粗利・営業利益の大幅成長へ

お金ではかなえられない
毎日をつくっていく。

前に進む人生のすべてに、一緒にいるデジタルを提供していく。

無意識のうちに、つい、あきらめてしまっていることを、

叶えられることに変えていく。



デジタルプラス

株式会社デジタルプラス（証券コード：3691）